

設置に係る留意事項に対する履行状況

| 区 分 | 留 意 事 項 | 履 行 状 況 | 未履行事項についての実施計画 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|--|----------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|------|-------|------------|------|------|------------|------|------|------|-----|--------|--------|--------|--------|------------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------------|------|------|------|------|--|
| 許 可 時 (平成14年7月30日) | 人文・社会学部については、平成15年4月1日で学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止すること。 | 平成15年度人文・社会学部の募集を停止した。⑮ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年次計画履行状況調査時 (平成16年3月9日) | 人文学部心理学科の定員是正に努めること。 | 人文学部心理学科の入学状況は次表のとおり是正の方向に向かっている。⑯ <table border="1" data-bbox="603 600 1117 750"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> <th>平均入学者定員超過率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">心理学科</td> <td>A入学定員</td> <td>120人</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>B入学者数</td> <td>165人</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>入学定員超過率B/A</td> <td>1.37</td> <td>1.25</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平均入学者定員超過率 | 心理学科 | A入学定員 | 120人 | 120人 | B入学者数 | 165人 | 150人 | 入学定員超過率B/A | 1.37 | 1.25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平均入学者定員超過率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 心理学科 | A入学定員 | 120人 | 120人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B入学者数 | 165人 | 150人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 入学定員超過率B/A | 1.37 | 1.25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 年次計画履行状況調査時 (平成17年3月30日) | 人文学部心理学科の定員是正に努めること。 | 人文学部心理学科の入学状況は次表のとおりである。これまでの歩留率を勘案し、慎重に歩留を設定した結果、是正された。⑰ <table border="1" data-bbox="603 857 1209 1008"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> <th>平成17年度</th> <th>平均入学者定員超過率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">心理学科</td> <td>A入学定員</td> <td>120人</td> <td>120人</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>B入学者数</td> <td>165人</td> <td>150人</td> <td>121人</td> </tr> <tr> <td>入学定員超過率B/A</td> <td>1.37</td> <td>1.25</td> <td>1.00</td> </tr> </tbody> </table> 平成18年度の入学状況は、次表のとおりである。⑱ <table border="1" data-bbox="603 1070 1300 1220"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成15年度</th> <th>平成16年度</th> <th>平成17年度</th> <th>平成18年度</th> <th>平均入学者定員超過率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">心理学科</td> <td>A入学定員</td> <td>120人</td> <td>120人</td> <td>120人</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>B入学者数</td> <td>165人</td> <td>150人</td> <td>121人</td> <td>109人</td> </tr> <tr> <td>入学定員超過率B/A</td> <td>1.37</td> <td>1.25</td> <td>1.00</td> <td>0.90</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平均入学者定員超過率 | 心理学科 | A入学定員 | 120人 | 120人 | 120人 | B入学者数 | 165人 | 150人 | 121人 | 入学定員超過率B/A | 1.37 | 1.25 | 1.00 | 区 分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平均入学者定員超過率 | 心理学科 | A入学定員 | 120人 | 120人 | 120人 | 120人 | B入学者数 | 165人 | 150人 | 121人 | 109人 | 入学定員超過率B/A | 1.37 | 1.25 | 1.00 | 0.90 | |
| 区 分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平均入学者定員超過率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 心理学科 | A入学定員 | 120人 | 120人 | 120人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B入学者数 | 165人 | 150人 | 121人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 入学定員超過率B/A | 1.37 | 1.25 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平均入学者定員超過率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 心理学科 | A入学定員 | 120人 | 120人 | 120人 | 120人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B入学者数 | 165人 | 150人 | 121人 | 109人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 入学定員超過率B/A | 1.37 | 1.25 | 1.00 | 0.90 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

7 その他全般的事項

<人文学部国際文化学科>

(1) 設置計画変更事項 等

| 認可時の計画 | 内容変更・状況、今後の見通しなど |
|-------------------------------------|---|
| <p>(1) 人文学部に国際文化学科及び心理学科の2学科を設置</p> | <p>① 学科名の変更 国際文化学科の名称を平成18年4月入学生から、現代文化学科に変更した。よって、現在は、国際文化学科(平成15・16・17年度入学生)と現代文化学科(平成18年度入学生)及び心理学科の3学科体制となっている。</p> <p>② 教育課程の変更 平成17年4月入学生から、授業科目区分の変更を行い、教育課程の一部を変更した。次に、平成18年度入学生から国際文化学科の学科名を変更するに当たり、教育課程の一部を変更した。</p> <p>③ 学生への入学時に示した教育課程は、学生が卒業するまで保証するなど教育課程の確実な履行に努めたい。</p> |

(2) 自己点検・評価等に関する事項

| |
|---|
| <p>A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>(別紙のとおり)</p> <p>B 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌国際大学自己点検・評価報告書を、平成18年9月に公表予定 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員及び諸関係機関に配布 <p>C 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本高等教育評価機構の評価を、平成22年に受ける予定である |
|---|

別 紙

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 人文学部国際文化学科設置の趣旨

人文学部においては「人間の文化と行動」を教育のテーマに掲げ、人間の生涯を支える人文的素養を基盤として、人間文化及び人間行動に関する専門基礎的な知識と技能の要請を目的としている。

2. 目的の達成状況に関する総括評価・所見

国際文化学科ではグローバルな視点から言語・異文化・歴史・芸術分野を含む人間文化、特に言語コミュニケーション・異文化比較・博物館マネジメント・表現芸術の分野を含む人間文化研究にかかわる教育活動を志向し、応用的・実践的な教育活動を行っている。

これは、国際社会の経済のグローバル化や政治のボーダレス化、地球社会の成熟などを背景に、豊かな教養と国際感覚をもつ人材が必要とされていることに対して、この分野の現代的要請に応える教育活動を行いたいとの動機によるものである。

国際文化学科の専門教育である言語コミュニケーション、異文化理解、博物館マネジメント、表現芸術の各分野における教養、専門、技能を重視した教育活動は、わが国および国際社会における人間的かつ文化的な適応と教育・福祉・文化の諸領域にわたる職業分野に生かすことが可能である。

また、学科教育の多様性を生かすため、主専攻と副専攻に相当するプログラムを導入している。学習プログラムは「コミュニケーション科目」を中心に現代英語を学ぶプログラム、「異文化比較科目」を中心に真意世界の生活文化を学ぶプログラム、「博物館マネジメント科目」を中心に博物館経営や文化行政の知識を学ぶプログラム、「表現芸術科目」を中心に舞台芸術の表現能力を養うプログラムである。「日本語教育科目」や「国際ボランティア科目」は各分野を補完する科目として位置づけ、活動などの実践的な授業を導入して日本人としての教養形成の基礎となる学習活動に学生を参加させ、学習の動機付けを行っている。

平成18年4月に国際文化学科を現代文化学科と名称変更した理由の第一は、複雑化する現代社会を生きる力を付与したいということであった。さらに「21世紀型市民」として、伝統文化の理解の上に新たな文化を創造し活躍する人材の育成を教育目標とした。実際に本学科学生は異文化理解・国際ボランティア・東アジア文化関連の科目やプレゼンテーション関連科目の履修率が高く、現代文化に強い関心を持っていることがうかがえる。

これら学生の興味・関心に応え、学習課題を主体的に学ぶ姿勢を涵養するために履修グループとしてコース制を導入し実践的教育に力点を置き、1年次から2年次にかけての演習科目においても単なる基礎ゼミにとどまらず、学生の専門的要求にも対応し、3年次以降の専門に対する意欲を高め、4年次のテーマ研究へとつながることで一定の成果を得ている。

このように多様性を重視したことにより学生の興味・関心には応えることが可能となったが、反面、各コースの科目関連と知識や理解の深化という面での不十分さをどう補っていくかということが課題となっている。今後は履修コースと教育課程のバランスを注視して、各科目と科目間の連携に配慮した教育課程の改善を検討する必要がある。

<人文学部心理学科>

(1) 設置計画変更事項 等

| 認可時の計画 | 内容変更・状況、今後の見通しなど |
|------------------------------|---|
| (1) 人文学部に国際文化学科及び心理学科の2学科を設置 | ① 教育課程の変更 平成17年4月入学生から、授業科目区分の変更を行い、教育課程の一部を変更した。 ② 学生への入学時に示した教育課程は、学生が卒業するまで保証するなど教育課程の確実な履行に努めたい。 |

(2) 自己点検・評価等に関する事項

| |
|---|
| <p>A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>(別紙のとおり)</p> <p>B 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <ul style="list-style-type: none">・札幌国際大学自己点検・評価報告書を、平成18年9月に公表予定 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員及び諸関係機関に配布 <p>C 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・日本高等教育評価機構の評価を、平成22年に受ける予定である |
|---|

別 紙

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 人文学部心理学科設置の趣旨

人文学部においては「人間の文化と行動」を教育のテーマに掲げ、人間の生涯を支える人文学的素養を基盤として、人間文化及び人間行動に関する専門基礎的な知識と技能の要請を目的としている。

2. 目的の達成状況に関する総括評価・所見

心理学科では人間の心の問題を焦点として、先進文化圏における人間行動のあり方に関する臨床心理研究及び社会心理研究にかかわる教育活動を行っている。

臨床心理専攻は現代社会における心の問題の認識と課題解決のための社会的要請に基づいている。今日の教育現場ではいじめや不登校、学級崩壊が顕在化しており、児童生徒や家庭に対して専門的なカウンセリングが求められている。そのため、臨床心理専攻の特色は、カウンセリング技能を支える心理学や行動科学の専門基礎的な知識を十分に習得させ、理論を実践に結びつけていく体系的な教育活動を導入していることである。人間としての成長過程にある児童生徒の精神的な援助活動を念頭に置いて、臨床心理学・精神分析・自己心理などの基礎理論を踏まえて、施設実習、カウンセリング入門、グループワークなどの授業を積み重ねながら、理論と実践との一貫した教育を志向している。

社会心理専攻は社会心理学の知識を中心として、主として職場や地域における社会的適応や社会的態度の形成に求められる諸条件を発見する能力の育成を目指している。

そのため社会心理専攻は、対人関係・組織集団・態度変容などの具体的な社会生活場面に関する理解に資する基礎的な知識を十分に習得させ、社会心理学の理論を課題解決技能と体系的に結びつけていく点に特色がある。社会心理学・メンタルヘルス・オフィス心理学などの基礎理論を踏まえて、社会観察、自己表現、職場カウンセリングなどの授業を積み重ねながら、理論と実践との一貫した教育を志向している。

加えて、心理学科では人と人とのふれあいを基本として成立する社会生活の中で、職業人として、また、家庭人としても豊かな心と適切な支援をなしうる人材の育成をめざして教育活動を行っている。それは人間としての魅力を備え、自立心と責任感をもち、すすんで社会に貢献できるような人間であり、そのために感性教育や表現教育を積極的に導入している。

さらに、学生の学習意欲を生かすために実社会での体験学習や幼稚園での参加観察、カウンセリング実務士関連の実習や演習、各専攻における基礎実験などである。

専門科目に関しては1年次では一般的な「心理学」のイメージと学問領域としての「心理学」の実際とのギャップを感じる学生の授業満足度が低い傾向にある。その改善のために専門科目の配置年次の変更や科目の見直しが必要である。